

ガンコ親父の

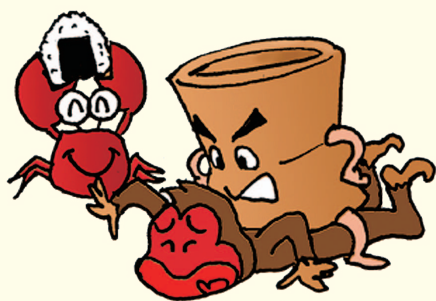
ある日、カニは道ばたにおむすびが落ちているのを見つけた。辛子明太子がまぶしてある魅力的なおむすびだった。そこにお腹を空かせた猿が柿の種を持って現れた。

「カニさん、カニさん。いいもの持ってるね。そのおむすびと俺の柿の種を交換しないかい？ おむすびなんて、食べてしまえばそれまでやけど、柿の種は播けば沢山の柿の実ができる。どちらが得か考えなくてもわかるよね」と、心の中で赤い舌をぺろっと出した。商談成立。猿はすぐにおむすびをパクリ。

カニは交換した柿の種を庭に播き、水をやりながら歌った。「早く芽を出せ柿の種。出さなきゃハサミで切っちゃうよ」と爪をかちやかちや鳴らした。種は切られてなるものかと、すぐに芽を出した。「早く伸びろよ柿の芽。伸びなきゃハサミで切っちゃうよ」と歌うと、急いで木になり、花も咲いた。さらに「早く実になれ柿の花。遅けりゃハサミで切っちゃうよ」と水やりを続けると、花には柿の実が。カニは「やった」とバンザイをした。

しかし、体が小さいカニには、高所に実っている柿を採ることができなかった。それを見ていた猿は、柿の早すぎる成長に驚きながらも「僕が柿をとってあげよう」と木登りを始めた。猿は赤い柿からちぎってはうまい、うまいと食べ続けた。カニが僕にもとってよと頼むと、キツと怒り、青い柿を投げつけた。固い柿が当たったカニは気絶。その悲鳴を聞きつけたカニの子供達が駆けつけて大騒ぎ。その隙に、猿は背負ザルに沢山の柿を入れて逃げ去った。見舞いに来た蜂はこの顛末を知ると、とんでもない話だと怒り、猿を懲らしめようとカニの子供達を引きつけて出かけた。途中で出会った栗に話すと「よし、猿をびっくりさせてやろう」と栗が仲間になった。次に出会ったのが大きな臼で、「ウッス、みんな揃ってどこ行くんだ？」と声をかけられた。ワケを聞くと臼はドスンと地面を踏み鳴らして怒り、仲間に加わった。さらに行く道真ん中に牛の糞が。糞は話を聞くと「フン、そんなやつ嫌い。私も行く」とブンブン臭いを発して怒った。

奄美黒糖焼酎



一行が猿の家に着くと、肝心の猿は外出していた。そこで、みんなは作戦を練り、それぞれの場所に隠れた。やがて猿は帰宅、囲炉裏に火をつけた。しばらくすると、囲炉裏の中から焼けた栗が弾けて猿に当たった。「アチチチ」。猿は水で冷やそうと、水鉢の蓋を持ち上げると、中から飛び出した蜂に目の周りを激しく攻撃された。これはたまらんと、家の外に飛び出したら、入り口に牛の糞が。寝そべっていて、それを踏んだ猿はすってんころりと転けてしまった。予定通りに屋根から大きな図体の臼が飛び降りてきて、腹這い状態の猿の上にドスン。その瞬間、沢山のカニの子供が現れ、爪でチクチク攻撃した。

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。

猿は許してくれ、もう悪いことはしないと謝った。そして、カニの家に向いて怪我したお母さんと和解。猿は許してもらった上に『しまっちゅ伝蔵』までご馳走になった。カニが家主の松次郎からもらったというこの酒は本当に美味すぎて、猿はつい飲みすぎてしまった。それで、今でも猿は顔もお尻も真っ赤なままだ。ふふっ。



<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。



25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251



「猿力ニ合戦」に乾杯!!